**ご案内**

**日ごろのご贔屓を御礼申し上げます。**

**‘16年度、上半期はゆるやかに過ごしましたが、下半期にいたりひと月のメキシコ滞在、半月のマレーシアなど目まぐるしく動いてまいりました。メキシコでは二都市で非常な歓喜をもって迎えられ、クアラルンプールでは人びともメディアも騒然として初めての舞踏に驚愕し、心底震えておりました。……気がつけば二年にいちどの新作の時期が迫っております。**

**「恐怖の恋」とは題しましたが、これは介山の菩薩峠からとった文句で、盲目の殺人鬼と焼け爛れた醜女の、道ならぬ馴れ合いをえがいたものです。**

**タイトルのみ決まり、中味を考えたとき独舞公演でいかに他者とのかかわりを現わしきれるかという課題が出てまいります。**

**腐心の末の術策は当日、ご覧にいれる通りでございます。**

**舞踏をもって何を世に問えるか、ということがわが国にいると不明瞭になります。ここでは何ら切実な表現など求められてはいないのかもしれません。**

**こうした欲求が海外ではいともすんなり解放されることが間々あるのですが、私は一個の日本人でしかありません。ともすると舞踏家としてのアイデンティティーすら失いがちな場にあっても、そこで闘いぬいて行くよりほかありません。**

**今回作も、来年度(‘17年10月初旬、於座高円寺を予定)の大作に向けてのひな型づくりとなります。踊るメンツはなかなか決定しないのですが、音楽はこれまでの作曲編集に変えて、石坂亥士君による生楽器の演奏に決まりました。高円寺ではさらにスペシャルな演奏家も加わる予定ですが、今回はシンプルに石坂君の奏でる打音、擦音を愉しむことにしました。**

**年の瀬に向けての気忙しい時季とは思いますが、どうぞ私どもの雑駁な遊びの現場におつき合いいただけますようよろしくお願い申し上げます。**

**平成28年11月吉日**

**工藤丈輝**